

令和元年度 第1回

陸別町総合教育会議会議録  
(公開用)

自 令和2年2月18日

至 令和2年2月18日

陸別町総合教育会議

令和元年度 第1回 陸別町総合教育会議会議録				
招集の場所	陸別町役場 3階 委員会室			
開閉会日時 及び宣告	開会	令和2年2月18日 午後2時00分	次長	空井 猛壽
	閉会	令和2年2月18日 午後2時34分	町長	野尻 秀隆
出席者	町長	野尻 秀隆	○	出席 5人 欠席 0人
	教育長	有田 勝彦	○	
	教育長職務代理者	西岡 愛則	○	
	委員	小木 育子	○	
	委員	後藤 和美	○	
説明のため会議 に出席した 者の職氏名	次長	空井 猛壽	主任主査	遠藤 克博
	所長	津幡 恵一	主任主査	大鳥居 仁
職務のため会議 に出席した者の職氏名	主任	角谷 亮輔		
会議に付 した事件	協議事項1 陸別町教育大綱の変更について			
	協議事項2 陸別町小中一貫教育の推進について			
会議の経過	別紙のとおり			

---

◎開会宣告

---

○空井次長 皆さん大変お疲れ様でございます。

定刻より若干早いのですが、皆さんおそろいになりましたので、ただいまから、令和元年度第1回目の陸別町総合教育会議を開催いたします。

まず、はじめに野尻町長から御挨拶いただきたいと思います。

---

◎町長あいさつ

---

○野尻町長 皆さん、どうもこんにちは。教育会議を開催するに当たりまして、ひとこと挨拶を申し上げたいと思います。

今、世間ではコロナウイルス肺炎ですか、そのウイルスで持ちきりなのですが、様子を見ますと、一般の風邪で、ただ薬がないだけで、そんなに心配するほどではないよとは言うのですが、十勝に来るのももうすぐなのかなと、それぐらいの今、勢いでないのかなと、そんなふうに思っています。まず、体調をきちんと管理して、あと、水分をたくさん取るというみたいです。胃の中に入れば、胃の胃酸がそのウイルスをやっつけてくれるというようなことをこの前、お話を伺いました。

ちょっと、話は横道にそれたのですが、本日お忙しい中、皆様ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃、皆様方にも大変お世話になっておりますこと、この場をかりて感謝を申し上げたいと思います。

さて、本町においては、現在教育行政に不都合があるとは、私も全然そんなことは思っておりませんが、今後の教育施策について意見交換や調整を行いまして、それぞれ思いや課題を率直に出し合い、相互理解に繋げて、よりよい教育、さらには町政の推進に寄与していくことが、大変大事なことでないのかなと、そのように思っております。

本日は議題として2件ありまして、陸別町教育大綱の変更と陸別町小中一貫教育の推進について、これを説明させていただきたいと思いますので、皆様方におかれましては忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

簡単ですが、以上で挨拶させていただきます。

---

◎協議事項

---

○空井次長 ありがとうございます。それでは、早速、議事のほうに入りますけれども、

この後の進行につきましては、野尻町長にお願いしたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

○野尻町長　それでは、着席のままに進めさせていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

それでは、協議事項（１）の陸別町教育大綱の変更について、これを事務局より説明していただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

○空井次長　それでは、私のほうから御説明を申し上げたいと思います。協議事項の一つ目、陸別町教育大綱の変更についてでございます。

現行、平成２８年に策定をいたしました陸別教育大綱でございますが、現大綱につきましては、大綱の期間を平成２８年から平成３０年度までとしているところでございます。これにつきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の３、第２項の規定に基づきまして策定をしておりますが、関係条文につきましては、３ページ目に記載をしておりますので、後ほど御確認をいただきたいと思います。

今回の御提案につきましては、平成３０年度までとされている現行の教育大綱、これを１年間延長させていただきたく、令和元年度までの教育大綱として定めていきたいという内容でございます。

主な延長の理由でありますけれども、これに関しましては、現在策定中であります第６期陸別町総合計画、令和２年度スタートとなりますが、まず、これと教育大綱をリンクさせたいという点が、まず一点目、それともう一点目が現陸別町長の野尻町長の任期に合わせるような形を取りたいと考えておりますことから、次期の教育大綱につきましては、令和２年度から令和４年度までとして大綱を制定したいと考えておるところでございます。

したがって、現行の平成３０年度までの教育大綱につきまして、今説明申し上げました理由から令和元年度までの１年間、期間を延長させていただこうというものでございます。資料の２ページ目には教育大綱の概要が記載されておりますので御確認をいただきたいと存じます。

以上、簡単ではございますが、協議事項一つ目、陸別町教育大綱変更についての説明とさせていただきます。

以上でございます。

○野尻町長　ありがとうございます。ただいま、事務局から説明がありました。これについて何か質疑等はありませんか。よろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

○野尻町長　質疑なしと認めて、原案どおり決定することとして御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○野尻町長　ありがとうございます。それでは異議なしと認め、協議事項（１）は原案のとおり決定といたします。

それでは、次に、進めさせていただきます。

次は、陸別町小中一貫教育の推進について、これも事務局から説明をお願いいたします。  
○空井次長 議案書のほうは、4ページ目をごらんください。協議事項の二つ目です。  
陸別町小中一貫教育の推進についてということで、これまでの取組内容等につきまして皆様に御報告をさせていただきたいと存じます。お配りした資料に基づきまして抜粋して御説明をさせていただきます。

まず、陸別町における小中一貫教育<sup>1)</sup>です、これにつきましては、一覧表に平成30年度までの取組みに関して、時間を追って経過を記載させていただいております。小中一貫教育に関連するところかというと、当町の場合は、平成16年度に小中連携教育の推進ということで、数々の小中連携の取組みを行ってきたところでございます。以降、小中学校いろいろな面で、授業等々で連携を図ってきたところでございます。平成28年度には、小中一貫教育校というものが制度化をされております。平成29年度になりますが、平成29年度においては、平成31年度から陸別町においても小中一貫校を導入するということが意思決定がされたところでございます。その後につきましては、以下に記載のとおり、数々の協議をさせていただきまして、準備を進めてきたところでございます。

平成30年度に入りまして、4月23日になりますが、これまでありました陸別町学校教育推進協議会、こちらを発展的に解消いたしまして、陸別町小中一貫教育推進委員会として新たな委員会を立ち上げて、平成31年度の小中一貫教育の導入に向けて研鑽を深めてきたところでございます。

小中一貫教育推進事業に関しましては、以下に書いてありますとおり、例えば、6月20日、白糠町から先進地の紹介ということで白糠町の教育委員会から先生をお呼びして、小中一貫の教育に関して小中合同の研修会を行っております。その後、こちらからも出向きまして、小中一貫推進委員会の皆さん、メンバーを呼びまして、6月には白糠中学校、7月には白糠小学校ということで、先進地視察を行ったところでございます。

また、あわせて教育委員の皆さんにおかれましては、占冠村等々、先進地の視察をいただいたところでございます。ということで、平成30年度までの動きにつきましては、4ページに掲載のとおりでございます。

続きまして、5ページ目をごらんいただきたいと思います。いよいよ平成31年度を迎えまして、小中一貫教育は、事実上スタートする年を迎えました。4月25日には、陸別町小中一貫教育推進委員会の総会を開催いたしまして、平成31年度の事業計画等につきまして協議を行ったところでございます。その後、役員会ですとか、あとは、小中一貫教育に絡む研修会に、ここに書いてある人数の皆さんが研修に行かれております。学校の先生方が対象となりますが、研修のほうに行ってください、より知識を深めていただいたところでございます。

また、6月と7月には、小中一貫に関する小中合同の研修会を行いまして、十勝教育局の指導主事の方に出前講座としてお越しいただいたり、あとは、7月に入りまして、特別支援教育に焦点を絞った合同研修会などを開いて開催をしたところでございます。それと、

7月16日から19の4日間になりますが、小中一貫教育の合同事業といたしまして、朝の合同あいさつ運動実施ということで、小中学校の生徒児童、それから先生を含めて陸別小学校の正門前で行ったところでございます。9月25日には、今度は日高管内様似町、こちら先進地ではありますが、先生方全員出席はかないませんでしたけれども、主要なメンバーで様似町を訪問し、小中一貫の実際のところを視察させていただいたところでございます。

続きまして、資料の6ページ目になります。11月15日になりますが、陸別町教育研究大会が陸別中学校で行われまして、この中でも小中一貫を意識した授業づくり、それから、意見交換等々、貴重な時間を過ごすことができた大会でございました。

以上、簡単ではございますが、資料に基づいての説明とさせていただきます。

以上でございます。

○野尻町長 ありがとうございます。小中一貫教育の説明がただいま終わりましたので、これから質疑、意見をお受けしたいと思いますが、何か御意見等ありませんでしょうか。

○西岡委員 小中一貫で、丸一年というか、いろいろやってきていると思いますけども、子どもたちの反応とかPTAの反応とか、もし、そういう反応がありましたら、教えていただきたいと思います。

○野尻町長 それでは、事務局から説明をお願いいたします。

○空井次長 まだ始まって1年足らず、準備期間が1年ありましたが、実際にお子さんですとか、PTAの皆さん、小中一貫を実感されているのが今年度に入ってからということで、具体的な大きな反応というのは、残念ながらないような状況ではありますが、逆に学校の先生たちからの視点でいいますと、これまで、小中連携として平成16年度からいろいろな取り組みを行ってきておりますが、それを木の幹として、今度は小中一貫として進めていくということで、義務教育9年間を見据えて、最終的に中学3年生の理想像というものを小中学校の先生方、共有できたのではないのかなと考えておるところでございます。いずれにいたしましても、まだまだ手探りの状態でスタートした小中一貫教育でありますので、今後も教育委員会、それから学校の先生方、地域を巻き込んだ中で、強力を推進をしていきたいなと考えておるところでございます。

以上、質問の回答になっていないかもしれませんが、御回答させていただきます。

○野尻町長 よろしいでしょうか。

○西岡委員 はい、いいです。

○野尻町長 そのほか、ございませんでしょうか。

○小木委員 現時点では早すぎるかもしれませんが、学力向上や体力向上のための方策としては有効だと思われませんか。

○野尻町長 いかがでしょうか。

○空井次長 先ほども申し上げましたが、なかなか成果が、即効性の発揮できるような事業内容ではない部分もありますけれども、今後の進め方にもよるかと思いますが、例え

ば、中学校の先生が小学校に乗り入れるといった専門的な知識を子どもたちに伝えるというような授業形態がもともと推進できる体制が整っておりますので、それを考えますと、今後、学力ですとか体力の向上を図るための方策としては、非常に有用な手段ではないのかなと考えておるところでございます。

簡単ですが、答えさせていただきます。

○野尻町長 よろしいでしょうか。そのほかに何かありませんでしょうか。

○後藤委員 今までの活動について今、説明を伺って、すぐ把握はできないのですけれども、これから、令和2年度の取組みについて、どのように考えているのかを聞いたかったのですけれど、よろしいでしょうか。

○野尻町長 これも事務局からお答え願います。

○空井次長 1年間、小中一貫教育を推進してきた中で、やっぱりよかったこと、それから、課題となる点というのは、学校現場の先生方も認識している部分はたくさんあります。そういったことも皆さんで出し合いながら、陸別らしい一貫教育のあり方、姿について、令和2年度は、1年間の実績を踏まえた中で、より深掘りも検討していくというような時期になるのではないかなというところがございます。

なお、小中一貫教育推進委員会の総会につきましては、次年度に開催になりますが、そこで、一定程度、令和2年度の方針が明らかになるものと思われまして、現在、推進委員会では、教務部ですとか、研修部といった各部を構成しておりまして、その各部の活動を軸に小中一貫をトータル的に進めていくことに、現在もそうなのですが、今後もそういうこともあろうかと考えられますので、この1年間の実績を踏まえて、それぞれ組織されております各部会の皆様の英知を結集して、よりよい形になっていくものと期待をしているところがございます。

一つだけ、御質問と違うかもしれませんが、この小中一貫教育をスタートするに当たって、新しい教科を創設することができることになっておりまして、当町の場合、陸別ふるさと科という教科を、今年度新設をさせていただいたところです。具体的な事業内容としましては、授業を、子どもたちに対する授業につきましては、関寛齋をはじめとする文化財、これに主眼を置いて、平成31年度、令和元年度は、ふるさと科ということで子どもたちに陸別の歴史であるとか文化であるとか、そういったところを自分の生まれ育った町をより深く知っていただくということで、陸別ふるさと科という教科を行ったところがございます。あわせまして、今回は新たな試みというか、まだスタートして間もないのですが、日本一寒い町ということもテーマにして、何で陸別は日本一寒い町と言われているのだろうというようなところ、皆さん何となく知っているようで知らない部分があると思うので、それについても、このふるさと科の一環として今回4コマしかできませんでしたが、中学校3年生を対象に授業を展開させていただいたという実績もございます。

以上、簡単であります。御質問の御回答とさせていただきます。と思います。

○野尻町長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

○後藤委員 はい。

○野尻町長 ありがとうございます。そのほか、ありませんでしょうか。

○有田教育長 小中一貫の取り組みについてということで、事務局のほうからもいろいろお話がありました。私のほうからも繰り返しになるかもしれませんが、この小中一貫教育、なぜやるのだという話なのですけれども、私としては、やっぱり、実績として目に見て分かりやすいのが学力の向上だとか、体力の向上だとか、毎年調査等がありますけれども、まず、ここのところを基本として見にいきたいなというふうに思っております。そこに全てとらわれるわけではありませんけれども、やっぱりそこで少し前に進んでいるのかなという実感が取れるのかなというふうに思っております。今、義務教育は小学校1年生から中3まで9年間あると、この9年間を小学校の先生も中学校の先生も全ての教職員が共通意識を持つと、要は小学校1年生の先生も今自分が教えている子どもたちが中3できちんと社会に出たときに社会性を身につけて強く生きていく力を身につけるのだということを意識させながら取り組んでもらうということがとても必要なのかなというふうに思っております。

この9年間を見通した一貫性だとか継続性がある指導を目指す姿というのが、とても大切で今のところ特に目に見えた成果というのが感じているわけではありませんけれども、私が感じているところでは、当初どうしても小学校と中学校の教職員の中では、この小中一貫については、中学校の先生たちのほうが大変意識を持って取り組んでいただけたと、また内容についても理解度が高かったのですけれども、小学校の先生たちは、どうしてもこの中学校に送り出すまでというようなイメージが今までありました。ですから、中3で卒業するところの意識までなかなか持っていけなかったというのが実態かなと思います。

ただ、去年の春先からずっと進めていって、今年、今年度取り組んでいますけれども、小中一貫の合同研修会だとか、十勝教育局から指導主事が来て、いろいろこの小中一貫についての出前授業だとか、他町へ行っての視察研修だとか、やっていく中で小学校の先生たちが、だんだんだんだん理解度が高まっていって、この小中一貫を一緒に取り組むのだという熱意というのは、今だんだんもともと下がったものがだんだん近づいてきているところ、ものすごい感じられて、そこは今のところ私とすれば、ものすごく成果があるなというところを感じているところでもあります。

ですから、今年度間もなく終わりますけれども、次年度につきましても、さらにこの小中教職員の連携と共通認識を高めていきたいというふうに思っております。この小中一貫教育の推進委員会では、先ほど次長のほうからもありましたけれども、五つの部会がありまして、合同でやっているときもありますし、部会ごとで研修をやっていることもあるということなので、それぞれ改善点等を見据えてやっていく。

例えば、今、学習プランとか生活プランとあってあるのですけれども、例えば、学習プランであると、家庭学習においては、今1学年15分と言われているのです。例えば、1年生だったら15分、2年生だったら30分というような感じ。ですから、6年生だと

大体、約1時間半ぐらいの目処が家庭学習をとすることを基準に考えております。学校の授業の取り組みだけでは、なかなか最後のまとめだとか、反復復習等について、やっぱり不足するので、自分で家庭学習、これはやっぱり保護者等の教育も当然必要になってくるのかなというところなので、ここはひとつ家庭学習は大切かなというふうに思ってきております。生活プランにつきましても、挨拶運動ってよく、どこでもやっております。役場でもやっています。でも、この挨拶が、簡単そうでなかなか簡単でない、社会になってもなかなか身につけていない方がやっぱりいるということで、役場職員も実感しているところもあるので、やっぱり、小中学生の間にしっかりと、この挨拶、社会性を身につけることが必要なのだというところであります。

特に、生活の指導の記録というのがありますけれども、やっぱり小学校の間、1年から6年生まで同じ学校内ですから、この引き継ぎがきちっと引き継がれてくるのですけれども、やっぱり、6年生から中1に行くとき、この引き継ぎ、単なる書類だけではなくて、先生同士の引き継ぎが当然必要ですし、ただ、この小中一貫になってくると、中学校の先生も小学校に乗り入れてくるので、書類だけではなくて、実際の自分の目でA君はこういう感じ、Bさんはこんな感じというのを見ていただけるかなと思いますので、そういう目に見える引き継ぎもやっていっていただけるのかなというふうに思っております。

新年度、既に取り組んでいるところでありますけれども、小学校が新学習指導要領に取り組むということで、五、六年生の外国語科、それから三、四年生の外国語活動でありますけれども、今年度、既に前倒しでそこにも取り組んでいますけれども、ここにも中学校の教員と、それから英語指導助手が行って、この英語の授業を行っております。小学校から言わせるとものすごくありがたいということでありまして、今後、効果が見られるような授業体系をつくっていかねばならないかなというふうに思っておりますので、今、新年度私の方からお話ししているのが、教育行政執行方針のほうでも、いろいろ小中一貫に関していうと、中身で明記をしているところでありますけれども、例えば、英語でいうと、今中2で海外研修行っていますけれども、現地でホームステイできるわけですから、そこで、最終、小学校からずっと学んできた英語が、最後そこでホームステイで、英会話で通用するかぐらいのレベルが最終到達かなというふうに感じているのもありますので、今は行ってきました、帰ってきましたということで、いろいろ報告も受けているところでありますけれども、身につけたものは現地で通用するということが子どもたちにも喜びにもなるし、次の高校へ行くときの自信にもなるのかなというふうに思っております。

そのために、例えば英語検定だとか、今、漢字検定とかいろいろあるのですけれども、まだまだ大きく取り組んでいるところではありませんけれども、ここも大きく取り組んでいって、できれば予算化をしていきながら、なるべく保護者にも負担をかけないような形の中で、そういうところも助成をしながら進めて行ければなというふうに今ちょっと考えているところであります。

私のほうからは簡単ですけれども発言をさせていただきました。終わります。

○野尻町長　ありがとうございます。皆さん、そのほか何かありませんでしょうか。

○後藤委員　今の教育長のほうから、小中一貫のことで先生たちの意識改革とかというのを話しされたのですけれども、学校の先生って異動ありますよね。そこで、その小学校、中学校の先生方が異動になってかわるときの、その引き継ぎというのですか、その辺ってどんなふうな感じになるのでしょうかね。とりあえず。まだ始まったばかりであれだと思えるのですけれども、やっぱり一番そこって難しいですよ。

○有田教育長　そうですね。教職員については、小学校も中学校もあって、どこに行っても基本的には授業をやるだとかってというような仕事の内容というのは変わっておりません。ですから、例えば、陸別から出て行って帯広に行ったからといって特に大きく何か変わるかというところではありませんけれども、基本的には市町村というよりは、学校、学校で学校長がおりますので、それぞれ自分で校長が持っている経営方針に従って進めていくということなのですけれども、特に大きいのは、やっぱり、出た先生はもう出ちゃっているから。入ってきた先生が今度よそで小中一貫を経験していない先生が来る可能性があることなのですけれども、そこは4月に来た時点で、学校長のほうから学校経営方針も含めて、今回、小中一貫に関しては、できれば小中の新しい先生たちには、合同で陸別の小中一貫の取組みについて、例えば、30年度はこうやってきました、こういうことをやってきて、ただ今後、改善点で令和2年度、こうやりますよっていうことを含めて、きちんと説明をして理解をしていただきながら、また一緒に研修をして進めるというところですので、その都度その都度、新しい人たちにも今の取組状況をきちんと説明をしていきながら、理解をしていただきながら、我々の戦力となっていただけるように実施をしてつなげていきたいというふうに思います。

○野尻町長　よろしいですか。

○後藤委員　わかりました。はい。

○野尻町長　そのほか何かございませんか。いかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

○野尻町長　ちょっと私から、ちょっと気になったことがあって、今日は学力向上とか体力向上の話もあって、バラエティがかっているテレビの番組だったのですけれど、現役の東大生がいました。彼ら曰く、高校の後半までは、ゲーム好きでゲーム好きで、勉強はけっばから何番目ぐらいという成績だったらしいですけど。突然、それまで、親はゲームばかりやってやめなさいってということしか言われていなかったのが、勉強を3時間やったらゲームは寝ないでやってもいいよということを言われたそうです。そうしたら本人、ゲームが本当に好きでやりたいものだから、その3時間をすごく効率よく勉強して、それで私は東大に入ることができたと言ったら、ちょっとこの前、これは小中一貫ですから、まだ話はつながらないかもしれないけれど、何かそういうヒントってあるのだなと、そのように感じました。全然関係ないことで申しわけございません。

それでは、もう意見がないということですので、今日、皆様から出された意見を踏まえ

まして、小中一貫教育の推進に取り組んでいただきたいと、そのように思います。今日出された意見には、それぞれの立場で進められることを切に願っておりますので、皆さんで力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。また、この会議とか、教育委員さんの会議だけではなくて、思いついたらいつでも御意見をいただければありがたいかなど、そのようにも思っています。

---

#### ◎その他の事項

---

○野尻町長　それでは、次に、その他であります。次回の開催、教育大綱の改定を踏まえますと、6月くらいまでには開催したいとそのように考えております。

その他、皆さんから何かあればお受けしますが、いかがでしょうか。ありませんか。

(「なし」の声あり)

---

#### ◎閉会宣告

---

○野尻町長　それでは、ないようですので、以上をもちまして令和元年第1回陸別町総合教育会議をこれにて閉会したいと思います。ありがとうございました。

閉会　午後2時34分

会議録作成職員　角　谷　亮　輔